

様式2(指定管理者施設)

指定管理者施設の管理運営状況評価(モニタリング)シート(平成22年度事業分)

1. 施設の概要

施設名	リニア見学センター	所管課	リニア交通課
所在地	都留市小形山2381	設置年月日 (改築年月日等)	平成9年3月28日
管理方式	指定管理者(都留市、平成18年4月1日～平成23年3月31日)		
設置根拠 (法律、条例等)	山梨県立リニア見学センター設置及び管理条例		
設置目的	より多くの人にリニアモーターカー及び山梨リニア実験線をわかりやすく紹介し、リニア中央新幹線の早期実現に向けて広く普及啓発するため、リニア見学センターを設置する。		
主な施設内容 (定員等)	1階:事務室・売店(219.26㎡) 2階:展示室(144.18㎡) 3階:展望室(111.49㎡)		
主な業務内容	(1)リニアモーターカーに関する情報の収集及び提供に関する業務 (2)施設及び設備器具の維持保全に関する業務 (3)その他知事が必要と認める業務		

2. 類似施設・近隣施設

名称・施設内容・ 利用状況等	
-------------------	--

3. 利用状況

単位:人、%

		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度 (目標値)
利用者数	利用者数	102,986	105,539	101,506	
	利用者数合計	102,986	105,539	101,506	
	目標値	81,000	85,000	85,000	85,000
	目標値設定の考え方	・超電導リニア試乗会の再開も考えられないことから目標値は前年度と同様とする。	・リニア試乗会の再開も考えられないが、前年度より実績5%の増が図られたことから目標値についても前年度の5%増とする。	・22年度もリニア試乗会の再開は見込まれないうえ、走行試験日も不定期のため前年度と同数とする。	・23年度もリニア試乗会の再開は見込まれないうえ、10月以降走行試験が行われない可能性が高いため前年度目標値と同数とする。
	対20年度比	100.0%	102.5%	98.6%	82.5%
稼働率					

4. 収支状況

単位:円、%

		平成21年度	平成22年度 (計画値)	平成22年度 (実績値)	平成23年度 (計画値)
収入	施設利用料				
	指定管理者委託料	18,000,000	18,059,000	18,059,000	17,940,000
	その他	16,590		20,006	
	収入合計(A)	18,016,590	18,059,000	18,079,006	17,940,000
支出	人件費	6,039,719	5,715,000	4,797,487	10,786,000
	県への納付金				
	管理運営費	11,976,871	12,344,000	13,281,519	7,154,000
	(うち外部委託費)(B)	2,156,903	2,171,000	2,092,954	2,532,000
	支出合計(C)	18,016,590	18,059,000	18,079,006	17,940,000
収支差額(A-C)		0	0	0	0
外部委託比率(B÷C)		12.0%	12.0%	11.6%	14.1%
利用者一人当りの経費		175	171	178	211

※直営の年度は、県の収支を記入し、指定管理者施設の年度は、指定管理者の収支を記入する。
 ※利用者1人当りの経費の算定式は、直営(H〇～〇年):(支出-収入)÷利用者数、指定管理者(H〇～):指定管理者委託料÷利用者数。

5. 利用者満足度

実施方法等	実施時期:平成22年4月～23年3月 実施方法:来館者へのアンケート 回答数:447人
-------	---

単位:%

調査項目	満足・十分	普通・ どちらでもない	不満足・ 不十分	不明・ わからない
①施設の整備状態	92.3%		3.4%	4.3%
②展示品の充実度	80.1%		12.5%	7.4%
③リニアへの理解度	70.0%	28.4%	1.6%	
④施設全体の満足度	92.6%	4.7%	2.7%	
各項目の平均	83.8%	16.6%	5.1%	5.9%

※調査項目は、施設ごとに適宜変更する。

利用者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・リニアの走行の仕組みが理解できる解説が良かった。 ・展示物の充実、実物車両の展示 ・子どもにもわかりやすい展示、子どもが楽しめる展示物が欲しい。 ・走行試験がないときは、実物車両の内部を見学できるようにしてほしい。 ・2,3ヶ月先の走行スケジュールの公表、休日での走行試験実施及びリニア試乗会の開催 ・トイレの洋式便器の増設
利用者の意見への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も利用者の生の声を聞き、改善できる点はしていきたい。なお、超電導リニアの走行試験日、試乗会等については、事業者であるJR東海の意向により決定されるため、当センターとしては改善困難な点が多々ある。

6. 評価結果

	指定管理者の自己評価	施設所管課の評価
維持管理業務	法令、業務仕様書等に基づき、適正に業務を執行した。	業務仕様書、業務計画書どおり適正に実施されている。
運営業務	事業計画書に基づき、適正に業務を執行した。	事業報告書及び現地確認の結果、適正に実施されている。
自主事業	計画どおり各事業を実施することができた。東日本大震災の影響で3月の利用者は激減したものの昨年度並の利用があったので、今後も継続したい。	計画どおり適正に実施されている。
利用状況	利用者数の大幅な増加は困難だが、地域の団体などへのPR活動に努め、事業計画の目標は概ね達成できた。	パンフレット配布等引き続きPR活動を行い、利用者の増員に努めること。
収支状況	修繕費が計画より大幅に増えたが、節電の徹底などにより経費の節減に努めた。	引き続き経費削減に努めること。
利用者満足度	早急に対応できる利用者の声については、対応を行った。今後とも利用者の声を聞き、改善できる点は行き、より一層のサービス向上に努めていく。	早急に対応できる利用者意見については、速やかな対応がなされた。引き続き利用者ニーズの把握に努め、管理運営に反映させるよう指導した。
施設所管課による総合的な評価及び指導事項	施設管理・運営業務等について、条例、協定及び提案等に基づき概ね適正に履行している。利用者については、リニア試乗会が行われておらず下半期は走行試験も行われていないにもかかわらず、平成22年度も引き続き10万人を超えている。 県内の各施設、観光案内所、県内外の旅行会社等へのパンフレット配布等の広報活動を行い利用者増加に向け努力した。今後も引き続き超電導リニアに関する知識の普及啓発を図り、リニア中央新幹線の早期実現に向けて、広く学ぶ機械を提供すること。	
施設の運営目標の達成状況	誘客活動の強化、サービスの充実等により、目標を達成した。 10月以降、走行試験がしばらく行われないため、今後入館者数が減少することが予想される。	
施設所管課の指導事項に対する指定管理者の対応状況	今後も施設管理・運営業務等について適切に履行し、超電導リニア及び山梨リニア実験線をわかりやすく紹介し、リニア中央新幹線の普及啓発に努める。	

7. 管理体制(組織図)

